

静岡県漁業協同組合連合会

1143静岡市葵区追手町 9-18
17. 5. 20 ☎054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成16年県内漁業・養殖業生産統計を公表

関東農政局静岡統計・情報センターでは、このほど平成16年漁業・養殖業生産統計(概数)をまとめました。それによると、県内漁業・養殖業の総生産量は215,266ト(前年比7%、13,445ト増)で、全国で6番目の総生産量となりました。

海面漁業の部門別漁獲量は、遠洋漁業及び沖合漁業で増加しましたが、沿岸漁業で減少して206,654ト(同7%、13,875ト増)でした。遠洋漁業の漁獲量は、遠洋かつお一本釣でピンナガが減少しましたが、遠洋かつお・まぐろ旋網でキハダ及びカツオが、遠洋まぐろ延縄でピンナガ、キハダがそれぞれ増加して73,646ト(同4%、2,813ト増)でした。

沖合漁業の漁獲量は、近海かつお・まぐろ旋網でカツオが、中・小型1艘巻網でカタクチイワシ、サバ類が減少しましたが、敷網、棒受網でサバ類が増加して110,736ト(同15%、14,575ト増)でした。

沿岸漁業の漁獲量は、大型定置網でマアジが、採貝でアサリ類が増加しましたが、船曳網でシラスが過去最低の漁獲量となり22,272ト(同14%、3,514ト減)でした。

海面養殖業の収穫量は、海藻類が増加しましたが、魚類は10月の台風22号による濁水や、生簀の損壊により減少して3,707ト(同11%、438ト減)で、内水面養殖業の収穫量は、マス類養殖で減少しましたが、ウナギ養殖が増加したことにより収穫量は4,597ト(同1%、58ト増)でした。また、内水面漁業の漁獲量は308ト(同15%、40ト増)でした。

この統計は、静岡県の漁業経営体が平成16年(1~12月)に生産した漁業・養殖業の生産量の概数を取りまとめたもので、確定値は「第52次 静岡農林水産統計年報(水産編)平成16~17年」に掲載されます。

2. カツオ一本釣漁業の活餌サバヒーを利用

近年、カツオ一本釣漁業にとって必要不可欠である活餌のカタクチイワシやマイワシ等の確保が困難となっていることから、イワシ類の代替・補完となる活餌としてサバヒー利用の可能性に関する調査を、(独)水産総合研究センターが行なっています。

サバヒー(Chanos chanos)は、主に西部太平洋とインド洋の熱帯・亜熱帯の沿岸域で生息し、高温・低酸素に強く、広塩性、共食いをしない、成長が速い、外見がきれいな銀白色であるなどの特徴を有しており、カツオ一本釣漁業の活餌としての適性に富んだ魚と考えられています。本調査では、サバヒーをトラックで蓄養場から漁船まで搬入する陸路搬入試験、日本東方沖合海域において遠洋カツオ一本釣漁船を用い、船上での蓄養試験及び魚群に対する釣獲試験を行いました。

陸路試験では、鹿児島県指宿市から焼津港間を20時間かけて搬送しましたが支障がなく、船上蓄養試験では、サバヒーを魚籠に収容し船上の散水ホース等でオーバーフローさせる方式で蓄養した結果、イワシ類に比べ死亡する尾数が極めて少ないことを確認しました。また、釣獲試験では、サバヒーはエラ・皮膚が固く釣針を掛けても長持ちする

ので、ピンナガ主体群で操業する時の掛け餌として高い適性を有すると考えられました。

今後同センターでは、船に積み込んだ直後に多く発生するサバヒーの死亡率をさらに下げる技術の開発及び魚群に対するサバヒーの誘因効果について詳細な調査を進めるとともに、サバヒーの特徴を生かした操業方法を深求することとしています。

3. 「えひめぎょれんパールフェスタ2005」開催のお知らせ

本会資材課では、全漁連及び愛媛県漁連の協力を得て、例年2月上旬にパールフェアを開催しておりましたが、本年は2回開催することになり、第1回目は来る6月3日(金)~5日(日)の3日間、静岡中央ビル(県水産会館)5階大会議室において、「えひめぎょれんパールフェスタ2005」を開催します。

会場では、日本有数の真珠生産地である愛媛県宇和島産の選りすぐった真珠製品の展示・販売をはじめ、真珠生産の歴史パネル展示、賢いパールの選び方教室などが行われるほか、初日の3日は、2005えひめぎょれん「真珠が似合う女性(ひと)」をイメージするキャンペーンレディ、ミズ・オンドアール(パールレディー)が来場する予定です。

また、二宮三己Collectionが終日開催されますので、是非お誘い合わせのうえ、多数の方にご来場くださるようご案内いたします。 開場時間：午前10時~午後7時(最終日のみ午後5時まで) 問合せ先：本会資材課 TEL 054-252-2155

一口メモ：「6月1日は真珠の日です。」「6月の誕生石は真珠です。」

4. 県立漁業高等学園 沿岸漁業コース後期生募集

県では、県立漁業高等学園(鈴木達夫園長)に、従来の遠洋・沖合漁船員を養成するコースに加え、今年度から沿岸漁業コースを新設しました。

このコースは、沿岸漁業の就業に必要な知識・技能の習得や資格の取得を目的とし、漁師の後継ぎになろうとする人や、UターンやIターンで漁業への就業を希望する人などの就業訓練機会として広く活用していただくことを目的とし、平成17年度後期生を次のとおり募集しています。

募集定員：後期生10人 期間：平成17年10月3日(月)~11月29日(火)

研修内容： 学科・実習 = 水産概論、海洋気象、漁業法規等の学科、ロープワーク・網補修等の実習(約5週間) 漁業実地研修 = 漁家等で直接漁業を体験する研修(約2週間) 免許講習(オプション) = 1級小型船舶操縦士(7月25日~8月3日)、第2級海上特殊無線技士(8月24日~26日) その他：原則通学制(事情により学園内の寮に入寮可)で、教材費、講習受講料等、必要な費用は研修生の負担 募集概要： 応募資格 = 漁業への就業を希望する者 申込受付 = 平成17年6月1~15日 選考日 = 平成17年6月24日(面接、作文により選考) 問合せ先：県立漁業高等学園 TEL：054-627-0219

URL：http://www.pref.shizuoka.jp/nousei/ns-36

5. 諸会議日程(5月24日(火)~6月6日(月))

- 既報分省略 -

5月25日(水) 県JF共済推進本部 = 通常総会 (ブケ東海)

5月30日(月) JF静岡女性連 = 通常総会 (農林中央金庫静岡支店)

5月31日(火) 6月 1日(水) 県漁連・県信漁連 = 地区別組合長会議

31日(県水産会館) 1日(下田市漁協)